

三重大学の取り組みについて



数字で見る三重大学 1

学部

5,907 名

大学院

1,189 名

教員数

742 名

5 学部 9 学科 1 課程

人文学部

文化学科/法律経済学科

教育学部

学校教育教員養成課程

医学部

医学科/看護学科

工学部

総合工学科

生物資源学部 資源循環学科/共生環境学科

/生物圏生命化学科/海洋生物資源学科

6 研究科

人文社会学研究科 教育学研究科

医学系研究科 工学研究科

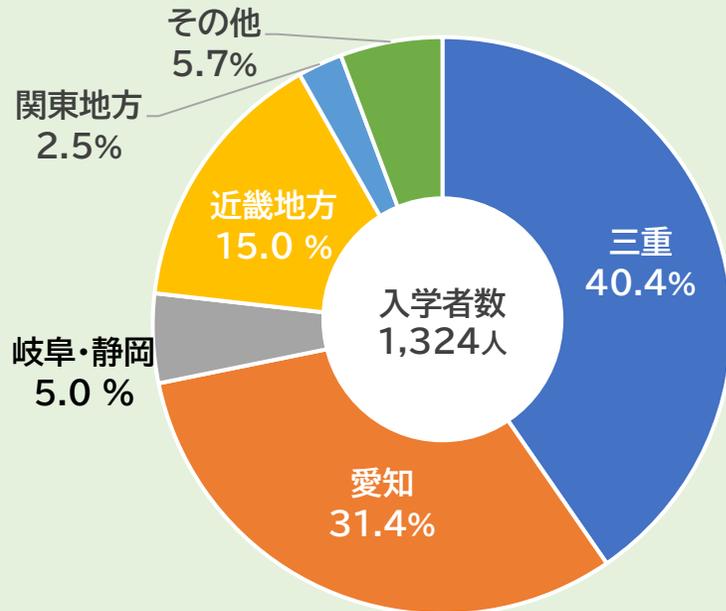
生物資源学研究科

地域イノベーション学研究科

数字で見る三重大学 2

入試概況

都道府県別入学状況(学部)

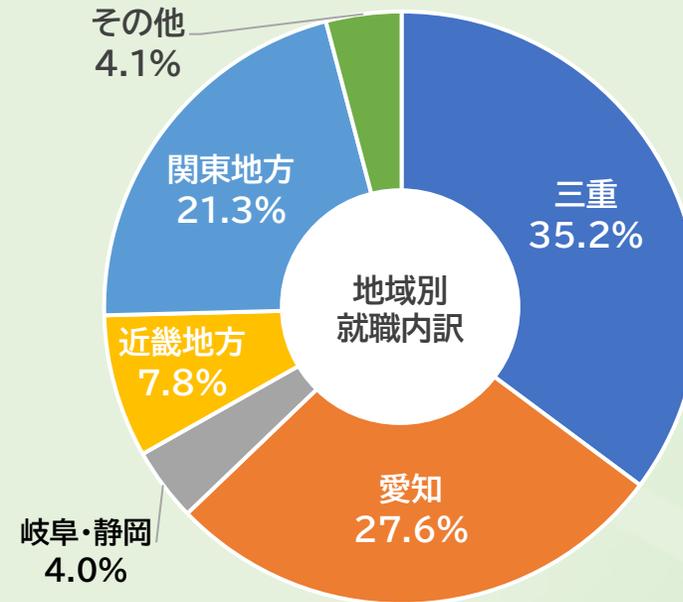


都道府県別入学志願者状況(学部)

全体	入学者	1,324人
	入学志願者	5,276人
東海4県の計 (三重・愛知・岐阜・静岡)	入学者	1,017人(全体の76.8%)
	入学志願者	3,868人(全体の73.3%)

就職状況

地域別就職状況(学部)



- 三重県からは約4割の学生が入学
東海地方(三重・愛知・岐阜・静岡)からは約8割の学生が入学
- 三重県に1/3の学生が就職
東海地方(三重・愛知・岐阜・静岡)へは約7割の学生が就職

三重大学の基本理念・学長ビジョン

三重の力を世界へ 世界から未来へ 未来を拓く地域共創大学

基本理念

三重大学は、総合大学として、教育・研究の実績と伝統を踏まえ、「人類福祉の増進」「自然の中での人類の共生」「地域社会の発展」に貢献できる「人材の育成と研究の創成」を目指し、学術文化の受発信拠点となるべく、切磋琢磨する

学長ビジョン



Active Learning

Society5.0社会でグローバルに活躍できる人材の育成



Basic & Advanced Research

特色ある世界水準の研究成果を社会に還元



Co-creation

地域共創と社会貢献につながる取組を展開



Diversity & Sustainability

国際化およびダイバーシティの実現と環境保全・SDGsの推進



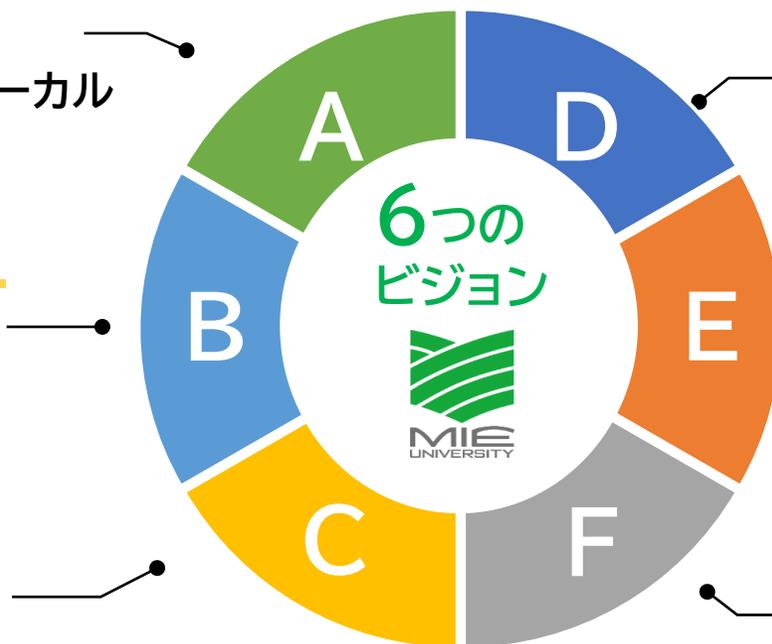
Engagement

ガバナンス改革と経営力の強化

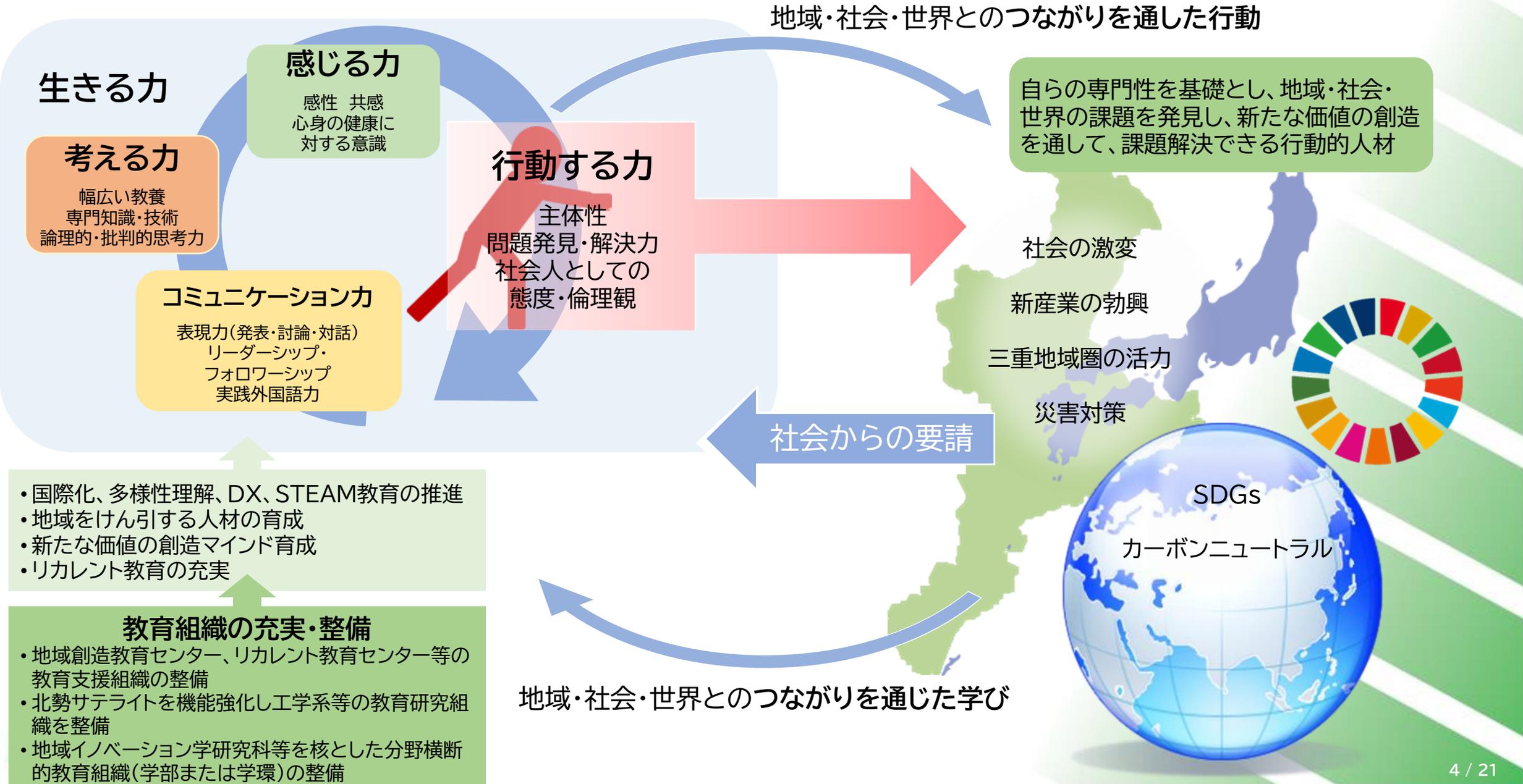


Face Risk

ポスト・コロナ、ニューノーマル時代の安全・危機管理体制の充実



地域・社会・世界とのつながりを通して、行動する力を引き出す教育



地域イノベーション学研究科の取り組み

特色

地域や社会との連携を通じて実践的な研究開発とプロジェクトマネジメント(PM)を同時に学ぶことができる文理融合型の独立研究科

地域産業

三重大学

地域イノベーション学研究科

博士前期課程

工学 / バイオ / 社会
イノベーションユニット

博士後期課程

地域新創造ユニット

PMができる研究開発系人材
及びPM能力を通して地域に
ゼロから1を創造できる
ソーシャル・アントレプレナー
人材の育成を目指す

社会人に優しいシステム

地域の特性に合わせた教育
研究ユニット構成

連 携

OPT(On the Project Training)型教育



三重地域圏の企業

企業との共同研究を
題材とした実践教育



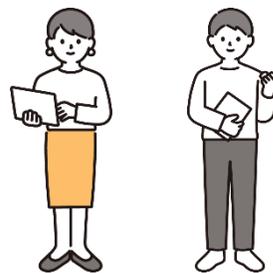
博士前期・後期課程学生

R&D教員とPM教員によるサンドイッチ教育



R&D(Research&Development)教員

基礎研究の指導



博士前期・後期課程学生

研究マネジメント
の指導



PM(Project Management)教員

三重県地域企業経営者層社会人博士の活躍事例

有限会社るびや 代表取締役社長

- ✓AIを導入した経営へ転換
- ✓AIを活用した来客数予測システムを開発し、新たな業種へと進出
- ✓導入後⇒食品ロスは3分の1程度へ減少、利益率10倍以上



	2012年		2019年
 売上	1億円	 約5倍	約5.6億円
 業種	1業種 (飲食)	 +5業種	6業種 (飲食/小売/テイクアウト EC/卸売/システム開発 販売/講演)

株式会社浅井農園 代表取締役

- ✓研究開発型の農業カンパニーを目指す
- ✓持続可能な新しい農業経営モデルの開発を推進
- ✓農業ロボットの技術開発や本州最大級のキウイ農場を開設



	2012年		2019年
 売上	1億円	 約17倍	約17億円
 従業員数	約50名	 約10倍	約500名

三重大学の研究活動(リサーチセンター)

リサーチ
センターとは

既存の研究枠にとらわれずに最終ターゲットを共有する、異分野の研究者が集まり、独創的な研究の創出を目指すグループ

目的

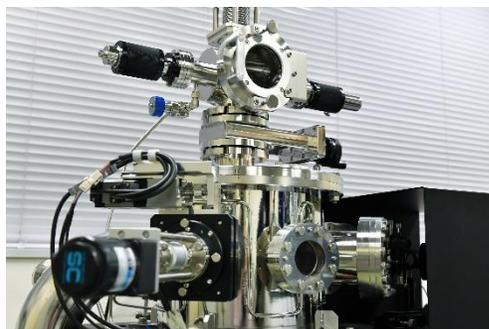
様々な分野の研究者が横断的な研究グループを作り、新たな視点を持った研究や新技術の創出を生み出し、新産業創出などを通じて地域に貢献する

国・地域・企業と大学が
コラボレーションする
先端研究の拠点へ。

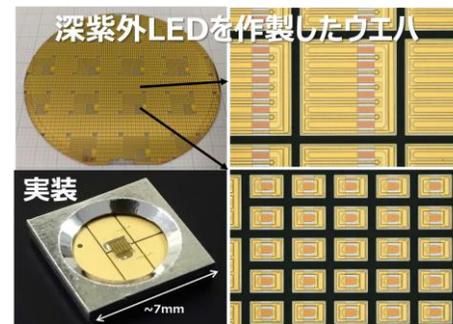


卓越型リサーチセンター (R5年度に2センターに更新)

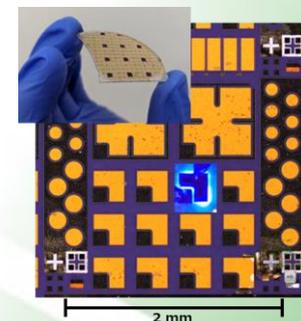
- 世界トップレベルの卓越した先端研究グループを支援することで優れた研究成果をあげることが目的とする。



「エネルギー材料統合研究センター」
代表:工学研究科 今西誠之 教授



「半導体の結晶科学とデバイス創製センター」
代表:工学研究科 三宅秀人 教授



重点リサーチセンター (R5年度に新設 現在選考中)

- 将来的に卓越型リサーチセンターを目指せる先端研究
- 産学官が共創して地域課題の解決を目指す研究
- 地域に根差したオンリーワン研究

➡ 全学的な資金提供・研究スペースの貸与により、研究活動を支援

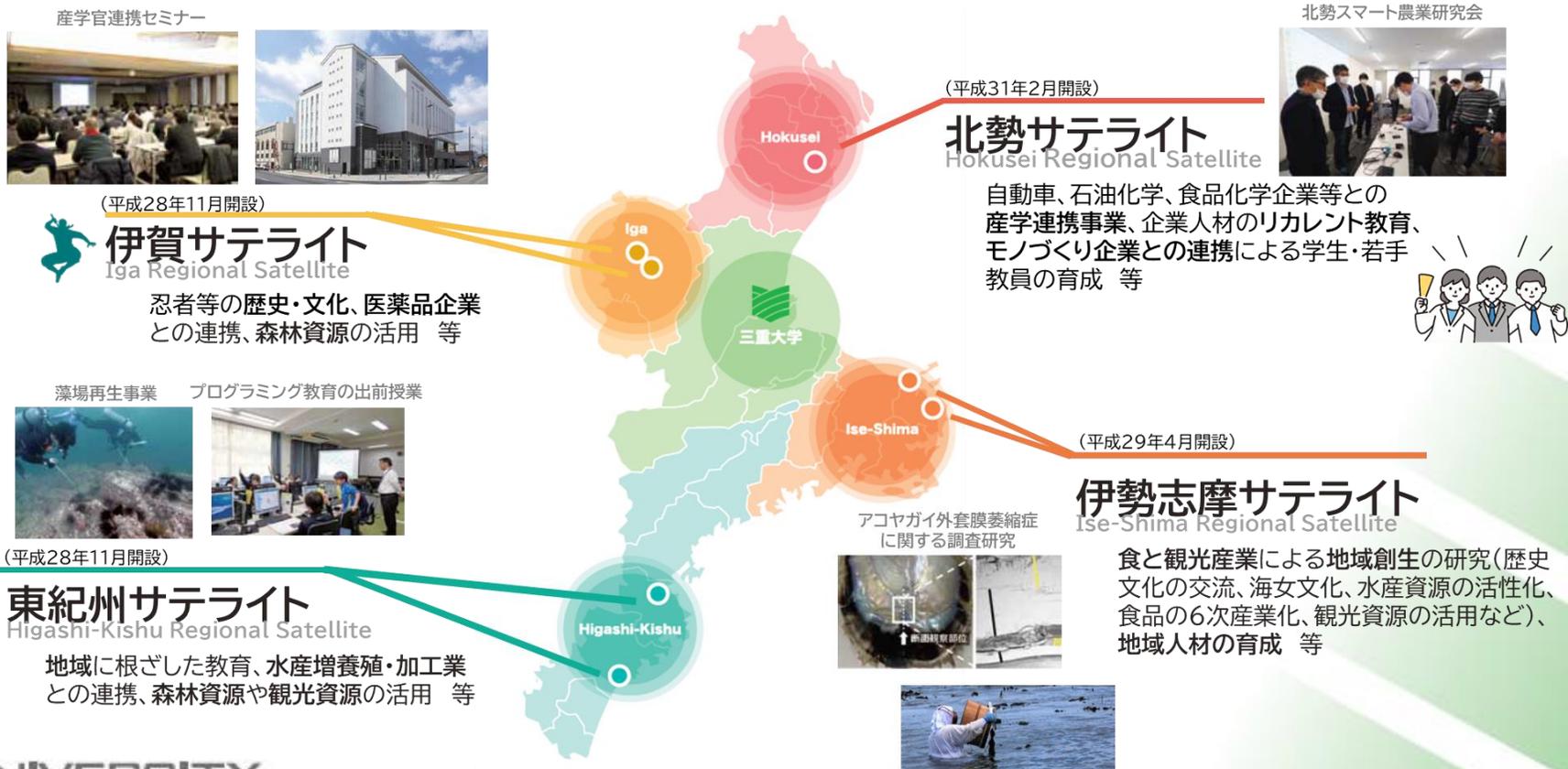
地域拠点サテライト

地域拠点
サテライトとは

県内全域を教育研究フィールドと位置付け、地元企業や自治体と大学を繋ぐハブ機能として、多様な地域特性を有する4つの地域サテライトを展開

目的

県内全域での活動を推進するとともに、企業や自治体との共同研究・共同プロジェクトを通じた地域の課題解決等に全学的に取り組みながら、大学の教育研究力の向上に加え、地域創生や地域の人材育成に貢献する



三重モデル地域創生

みえの未来図共創機構

地域社会のニーズの具現化に取り組むシンクタンク機能を整備
地域社会から日本の持続可能な未来創り「みえの未来図共創」に取り組み、地域創生の自走化を目指す

地域共創展開センター

社会共創による地域イノベーションモデル構築

①産業の未来図

先端技術の社会実装とそれを活用した新たな社会価値の創出に取り組む

- 先端的研究の社会実装に向けた産学連携
- 次世代通信・デジタル技術の活用
- 新産業転換への取り組み
- 循環型社会の形成・創出



②日本の地域モデルの未来図

地域の豊かな資源と特色ある文化を生かした地域課題解決・地域文化発展に取り組む

- 地域文化研究の発信
- 農林水産業の諸問題の解決
- 学生の参画による地域活性化
- 教育課程の解決
- 医・食・住の課題解決



③持続可能社会モデルの未来図

暮らしやすい社会を目指した安心・安全・快適社会の形成に取り組みます

- 医学・医療DXへの取り組み
- 災害時の医療・看護
- 防災意識の向上と人材の育成
- 国土強靱化に資する教育研究



リカレント教育センター

地域産業等課題解決型人材の育成

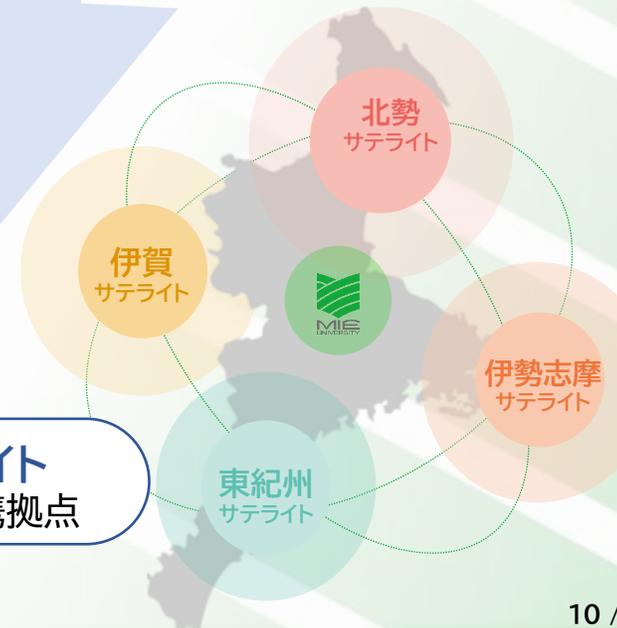
地域創生・社会実装

地域創造教育センター

三重型地域創造人材育成システムの構築

地域との共創、協働による
「三重モデル」を
三重から全国へ、世界へ

地域拠点サテライト
取り組みの実施・連携拠点



地域共創展開センター 「①産業の未来図」部門

三重県四日市を中心とする地域共創の場の形成



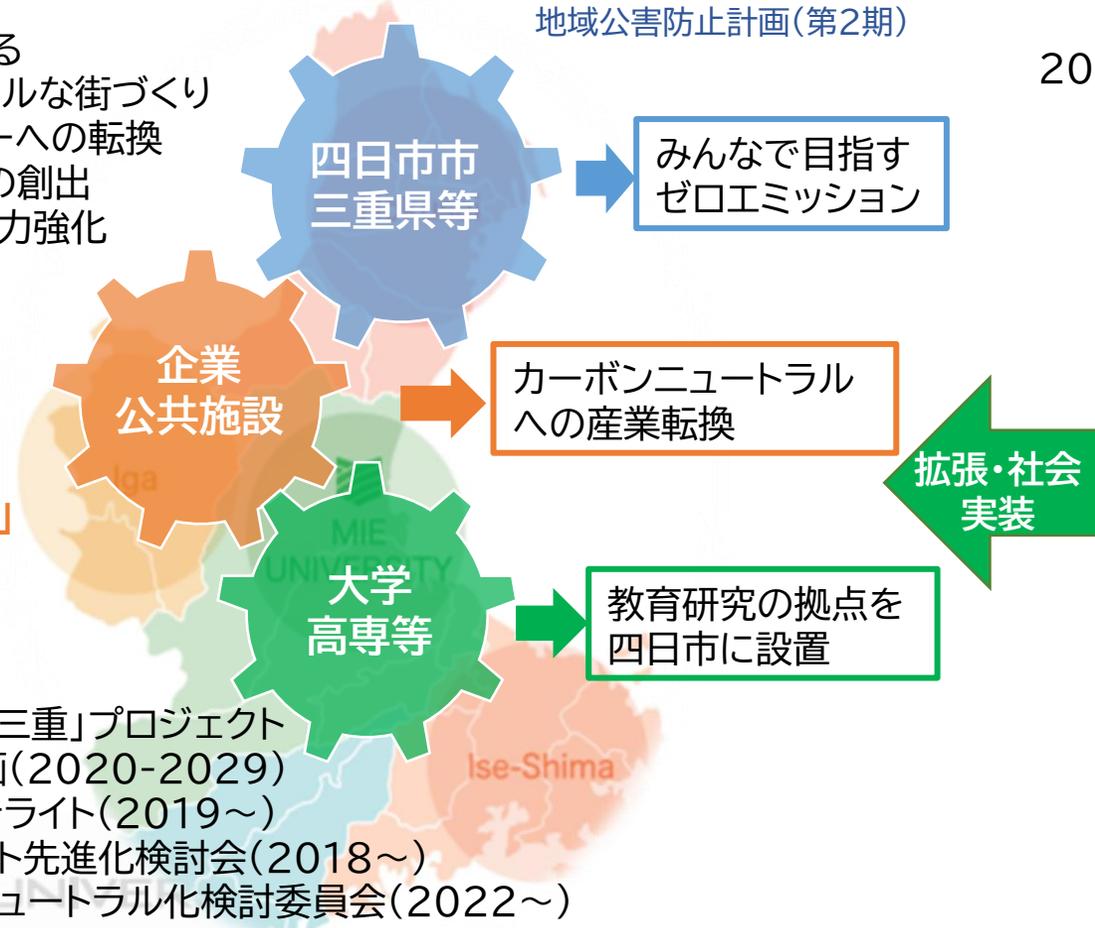
ターゲット

- 1) 市民と企業で考える
カーボンニュートラルな街づくり
- 2) グリーンエネルギーへの転換
- 3) 産業転換・新産業の創出
- 4) 地域と企業の防災力強化

「人が変わる」
「大学が変わる」
「社会が変わる」

産官学の連携

- ・「ゼロエミッション三重」プロジェクト
- ・四日市市総合計画(2020-2029)
- ・三重大学北勢サテライト(2019~)
- ・四日市コンビナート先進化検討会(2018~)
- ・四日市カーボンニュートラル化検討委員会(2022~)



- ① 待ったなしの地域の脱炭素化
- ② 石油化学工業のカーボンニュートラル産業転換

2011

スマートキャンパス 三重大学 MIE UNIVERSITY

創エネ・蓄エネ・省エネの推進

エコ大学ランキングで総合1位(2013年)

1 エネルギーマネジメントシステム

総合研究棟 II

スマートメーター (各建物の電力使用量を常時監視)

運用の無人化
電力の需要と供給予測
電力と空調の最適化制御

4 風力発電 (300kW)

良好な風況を活かし、一般家庭約90軒分の電気を発電

羽根の最高高さ 5.8m

羽根の直径 3.3m

2 蓄電池 (432kWh)

蓄電池出力特性

5,000
4,000
3,000

25 20 (電圧)

5 太陽光発電 (60kW)

日照が良いキャンパスで、一般家庭約16軒分の電気を発電

パネルの下は駐車場利用

太陽光パネル

3 ガスコージェネレーション (2,000kW)

CO₂削減のためのエネルギー転換

排熱の有効利用

ガスエンジン設備: ガスで発電

排熱利用 吸収式冷凍機

6 空調設備(エアエ)更新

デシカント空調 (温度湿度個別空調) を導入

温湿度調整空調

温湿度調整空調 (室外機)

蓄エネ: エネルギーをためる

創エネ: エネルギーをつくる

省エネ: エネルギーを上手に使う 11 / 21

地域共創展開センター 「②日本の地域モデルの未来図」部門

スマートビレッジに向けた三重県御浜町デジタルトランスフォーメーション基盤整備

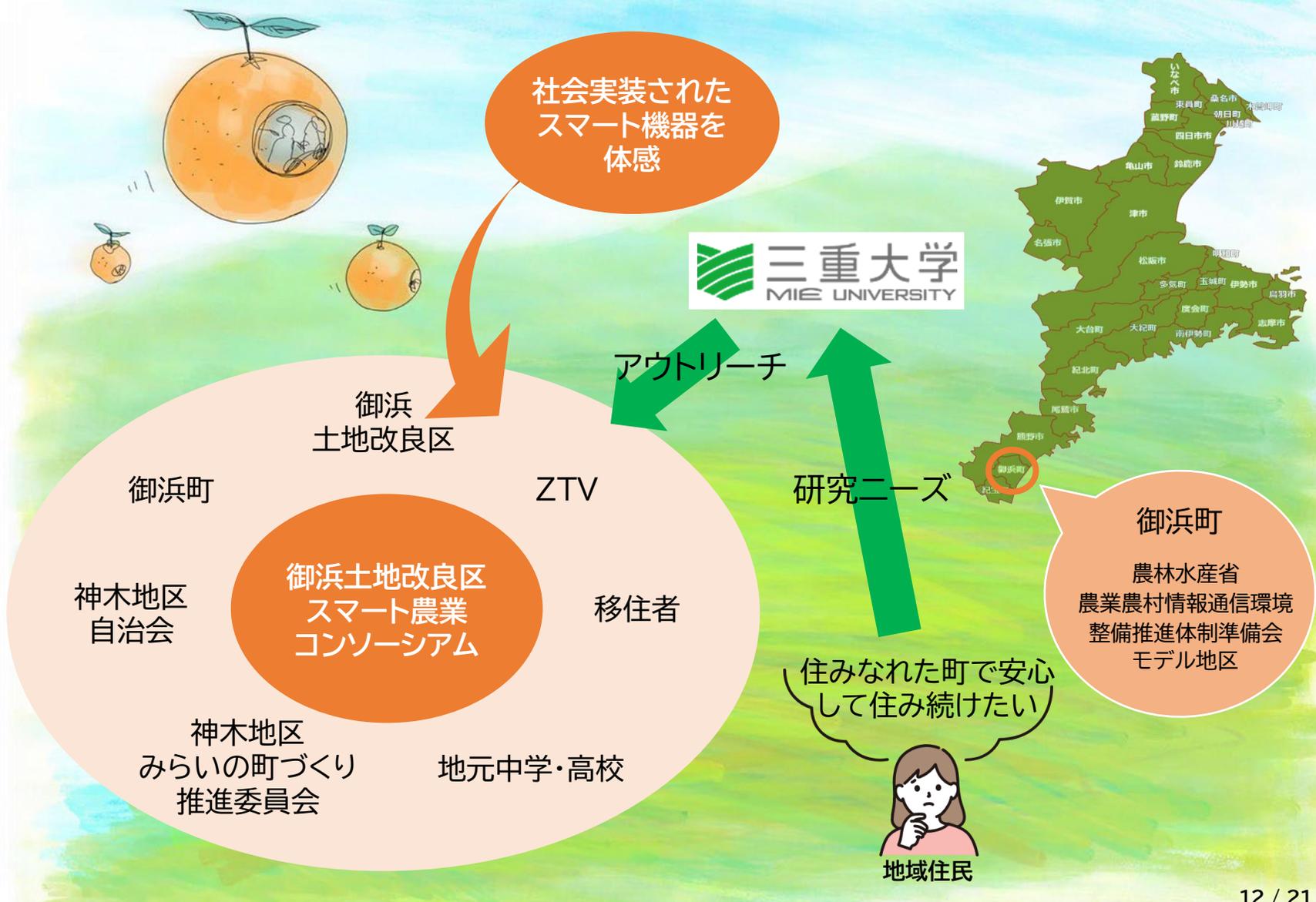


アウトプット

- 基幹産業であるミカン栽培のDX化(遠隔かん水システム、ため池遠隔監視、遠隔わな監視等の整備)
- 共同研究、技術開発、発表論文
- ワークショップ等の開催
- 地元中学校、高等学校との連携とアウトリーチ活動

アウトカム

- 受益者の満足度20%の向上(案)
- 視察受け入れ件数の増加



地域共創展開センター 「③持続可能社会モデルの未来図」部門

デジタルトランスフォーメーション(DX)を活用した医療分野における患者中心の「社会との共創」

北勢サテライト・新拠点 (桑名市総合医療センター)

- 官民病院の統合成功例
- 三重大学、桑名市、医師会、地域の病院・医院との協力関係
- 桑名市と「新しい未来の共創に関する協定」を結びプレスリリース

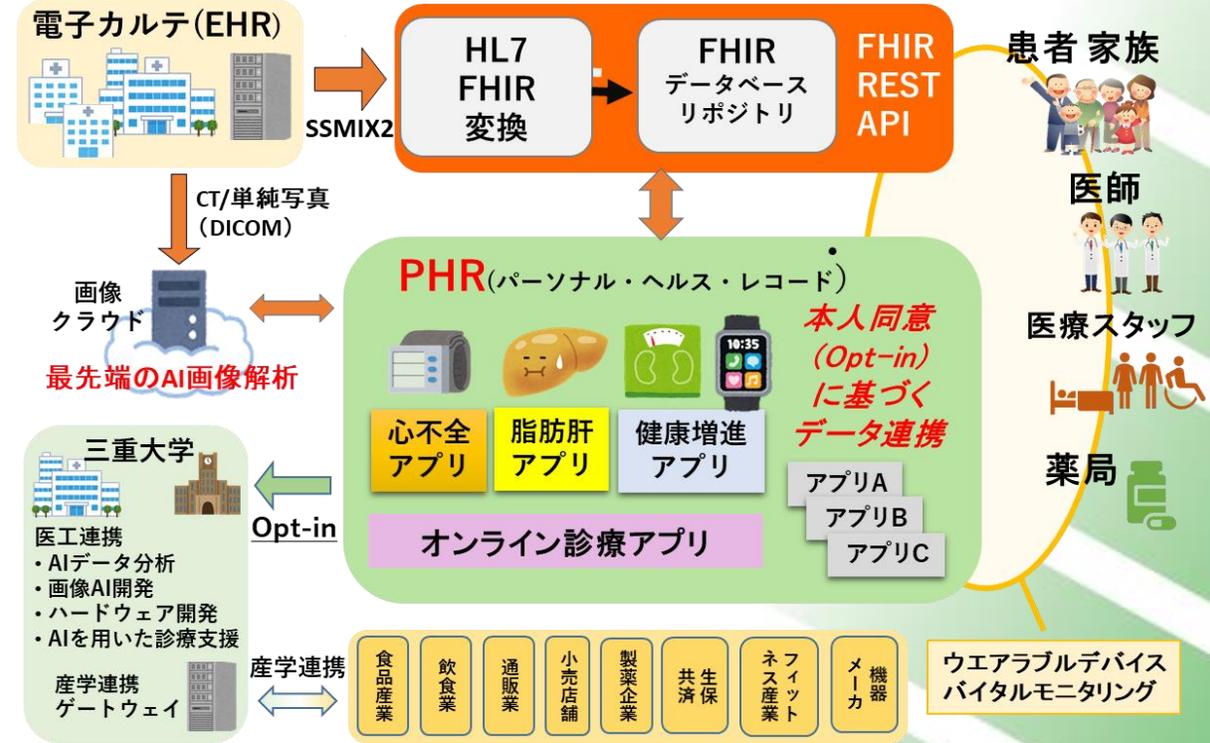
成果を三重県全体に還元

三重大学における医学分野DXの推進 医療DXに関する実践的教育

- DXと人工知能(AI)に関する卒前教育
 - 地域に勤務する医師に対する実践的なDX教育
- ### 診療のDX化
- PHRによる患者の状態把握と早期受診の推奨
 - スマホやウェアラブル端末による在宅医療支援
 - スマホ問診とAIによるオンライン受診勧奨

健診・予防医学のDX化

- 地域クラウド画像サーバとAIによる肺がん検診支援
- 公民連携による健康寿命延伸プログラムのDX化



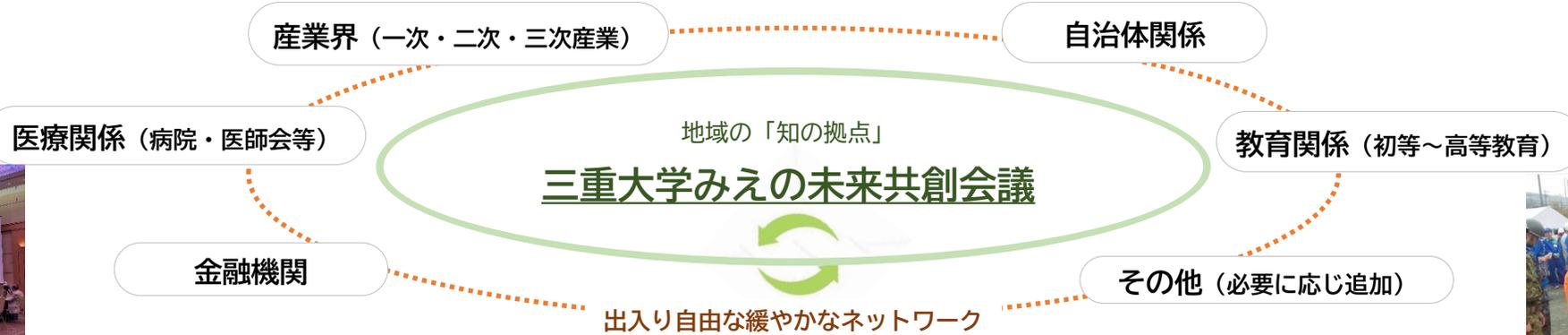
- 卒前卒後の医療DX教育の充実は、地域医療においてDXを加速させイノベーションを起こすのに不可欠
- データサイエンスの医療分野への展開
→患者自身がPHRの医療情報共有をスマホ操作で承諾
- 三重大学のDX先端技術を患者との社会共創に活かす
- 本事業による医療DXを活用した患者中心の「社会との共創」の成果は、三重県全体に迅速に還元

地域連携プラットフォーム(三重大学みえの未来共創会議)

目的

地域社会でどのような人材が必要なのか、地域社会は三重大学の教育研究機能に何を求めているのか、三重大学は地域社会に対してどのような貢献ができるのかについて、恒常的に情報を把握し、共有し、必要に応じた大学改革の検討を進めること

R4.7.29
三重大学みえの未来共創会議【キックオフ】開催



みえ防災・減災センター

分野別の実行体

学生教育分野	地域医療分野	地域防災分野	産業振興分野
<p>高等教育コンソーシアムみえ 地域人材育成推進会議</p> <p>< 主な目的 > 県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、人口減少の抑制と地域の活性化の実現</p> <p>参画機関 県内高等教育機関、三重県、各種企業 他</p>	<p>みえの未来医療会議</p> <p>< 主な目的 > 三重県内の地域医療体制の強化 医師養成に係る連携体制の維持 県内看護職員の連携強化 など</p> <p>参画機関 県内医療機関、三重県・県内自治体、 医師会、看護協会 他</p>	<p>三重県・三重大学 みえ防災・減災センター</p> <p>< 主な目的 > 三重県の地域防災力の向上に資する人材育成や活用、地域・企業支援、情報収集・啓発、調査・研究 など</p> <p>参画機関 三重県、三重大学 (関係機関)自治体、企業、医師会 他</p>	<p>産業振興プラットフォーム</p> <p>< 主な目的 > 三重県内の産業界等に向けた人材育成や課題解決に資する技術開発、シンクタンク機能 など</p> <p>参画機関 各種企業、三重県・県内自治体 他</p>

推進機能 (必要に応じて、産官学で構成)

大学と行政が一体となった組織でめざす“レジリエントな三重づくり”

レジリエンスの思想をふまえ、三重県と共同で設置し、大学と行政が一体となって人材育成・活用、地域・企業支援、情報収集・啓発、調査・研究等の取組を行っている。平成26年創設で全国初の取組。



目的

三重県地域で発生する自然災害に備えて、防災・減災活動を担う人材を育成する

みえ防災塾

防災人材の育成



基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座

「みえ防災コーディネーター」認定者数
累計1,055名

- 災害時は公的な組織と協働して、復旧・復興活動への支援を担う地域防災・減災活動に貢献できる人材を育成
- 「みえ防災コーディネーター」として、防災・減災活動に関する知識を持ち、平常時は地域や企業等で自主的な防災啓発活動を行う

応用コース さきもり応用コース

「三重のさきもり」等
認定者数
累計403名

- 「三重のさきもり」として先進的・実践的な防災・減災のための計画立案と、そのマネジメントを行う能力を持つ地域防災・減災リーダーを養う
- 演習や実習における少人数教育、対話を重視した教育を通して、現場で活躍するための応用力や実践力を養う

防災人材の活動支援

みえ防災人材バンク

登録者数
594名

三重さきもり倶楽部

地域防災力の向上

環境・SDGsの取り組み

環境マネジメントシステム

- 環境マネジメントシステムに関する国際的な基準規格である「ISO14001」認証取得
- 「環境・SDGs方針」の策定・公表
- 三重SDGs推進パートナーに登録(第1期)



環境ISO学生委員会

- 執行部を中心とした**学生主体**の自由な発想で環境活動を促進
- 主な活動内容:**環境内部監査**実施、3R活動、海岸清掃、イベントへの参加 等

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

環境・SDGs 先進大学

を目指して

SciLets育成事業

- SciLets (サイレッツ / **科学的地域環境人材**) 育成のためのオンライン「**環境リカレント教育システム**」
- 地域の環境を保全し、地域の環境価値を利活用して**地域の活性化**を図る



スマートキャンパス

- 地域の企業・行政・研究機関との共同による**環境科学技術研究**の推進
- 大学施設を活用した**地球温暖化防止**、**自然共生**等の**革新技術**の実現化
- 環境活動の見える化「**MIEUポイント**」

環境・SDGs方針

環境・SDGs基本方針

三重大学は、大学基本理念のもと、地域に貢献する総合力とチーム力を高めて「つながる知、ひらく未来、地域共創大学」への発展に努めます。すべての構成員がSDGs(持続可能な開発目標)の趣旨を理解し、環境先進大学としての取り組みをさらに強化し、環境・SDGsのプラットフォーム機能を築き上げ、カーボン・ニュートラル社会の形成などに向けた環境の諸課題を地域と共に研究し、新しいコミュニティづくりの一翼を担う地域共創大学として、持続可能な社会の貢献に寄与します。

この環境・SDGs方針を達成するために、SDGsの17のゴールの達成に資する環境マネジメントシステムを確立、実施、維持し、向上に努め、環境関連法令等の要求事項を遵守することにより、自らの教育・研究・社会貢献及び業務運営の能力を活かし、さらに発展的な環境・SDGsの取り組みを進める決意を表します。



環境・SDGs取り組み

— 教育 —

環境とSDGsの知見と行動力を兼ね備え、持続可能な社会の担い手となる学生を輩出するための教育を実施する。

— 研究 —

環境問題の解決とSDGsの達成に向け、産官学民の分野横断的なパートナーシップと文理融合を成す研究力向上を加速させる。

— 社会貢献 —

教職員と学生が産官学民と共創を図り、環境問題の解決とSDGsの達成に向けたりカレント教育等を通じて、活気ある豊かな社会の実現に貢献する。

— 業務運営 —

すべての教職員と学生が、カーボン・ニュートラルや資源の有効活用およびSDGsの取り組みなど、事業に関わる環境保全・SDGsの推進に努める。

医学部・附属病院の地域貢献について

つながる医療、みえる未来

基本理念

信頼と安心が得られる地域医療の拠点として、未来を拓く診療・研究を推進し、人間性豊かな優れた医療人を育成します。

病院概要

病床数 685床
(一般655/精神30)

※2022年6月現在

職員数 1,901人

医師・歯科医師 532人(医員・研修医含む)、
看護師 747人、技師等 257人
事務系職員・その他 365人

がん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院、がんゲノム医療拠点病院、エイズ治療拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、三重県アレルギー疾患医療拠点病院、地域災害拠点病院、三重県難病診療連携拠点病院

役割と機能

- ・人間性豊かな優れた医師や医療者の育成
- ・最先端の医療の提供や医療技術の開発
- ・「最後の砦」となる重症患者さんに対する医療の提供

医師派遣

地域の医療を安定的に維持することを目的に、常勤医として派遣している医師数

207病院

1149人



医学部の地域枠学生

目的

医師の総数確保および地域偏在是正を目的とする。(2006年度～)

地域枠A

1. 三重県内の高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者、卒業見込みの者
2. 三重県外の高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者、及び卒業見込みの者で、出願時に扶養義務者が3年以上三重県内に居住している者

地域枠B

1. 扶養義務者が3年以上対象とする市・町に居住している者
2. 対象とする市・町長と、三重大学医学部が指定する病院の院長とが共同で行う面接によって、地域医療を担う医師にふさわしい優れた能力・倫理観・責任感を有する者であるかの評価を受け、対象とする市・町長の推薦を受けた者

地域医療枠

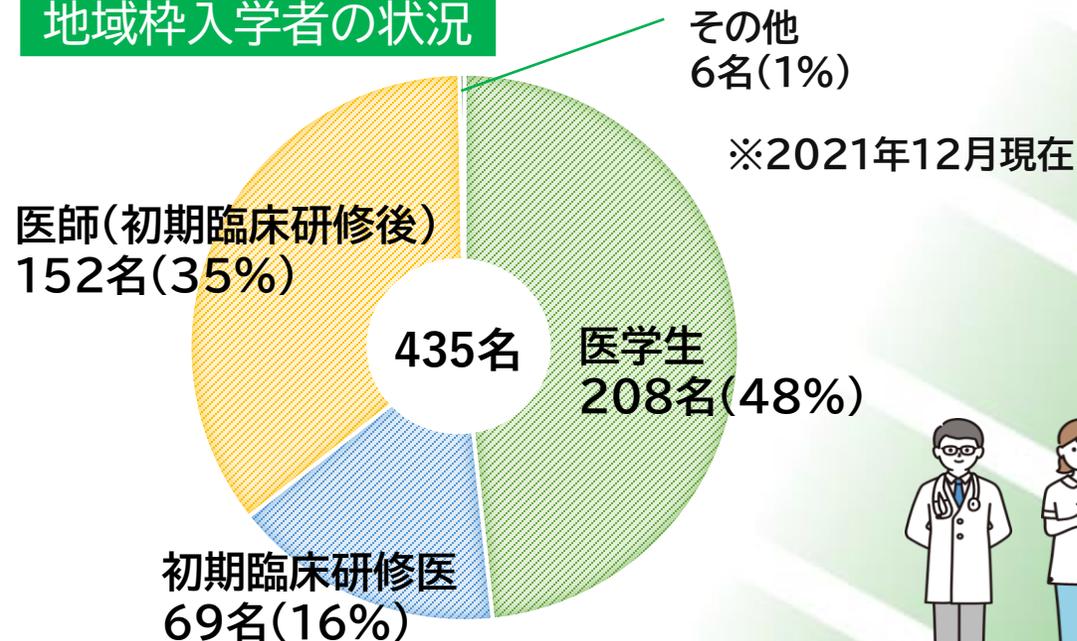
- 三重県内の地域医療に貢献する明確な意志を持ち、在学中は三重県医師研修資金の貸与を受けて、卒業後、一定期間三重県が指定する医療機関で医師として従事する意志のある者を選抜する

※高校卒業後の期間に関する条件は設けていない
※県外出身者も志願できる

医学部定員



地域枠入学者の状況



医療施設従事医師数の増加



医師数
(人口10万人あたり)

2006年 37位

177.9人
(206.3人)

2020年 35位

231.6人
(256.6人)

+53.7名

※2010年からの増加率は全国14位

※()内は全国平均

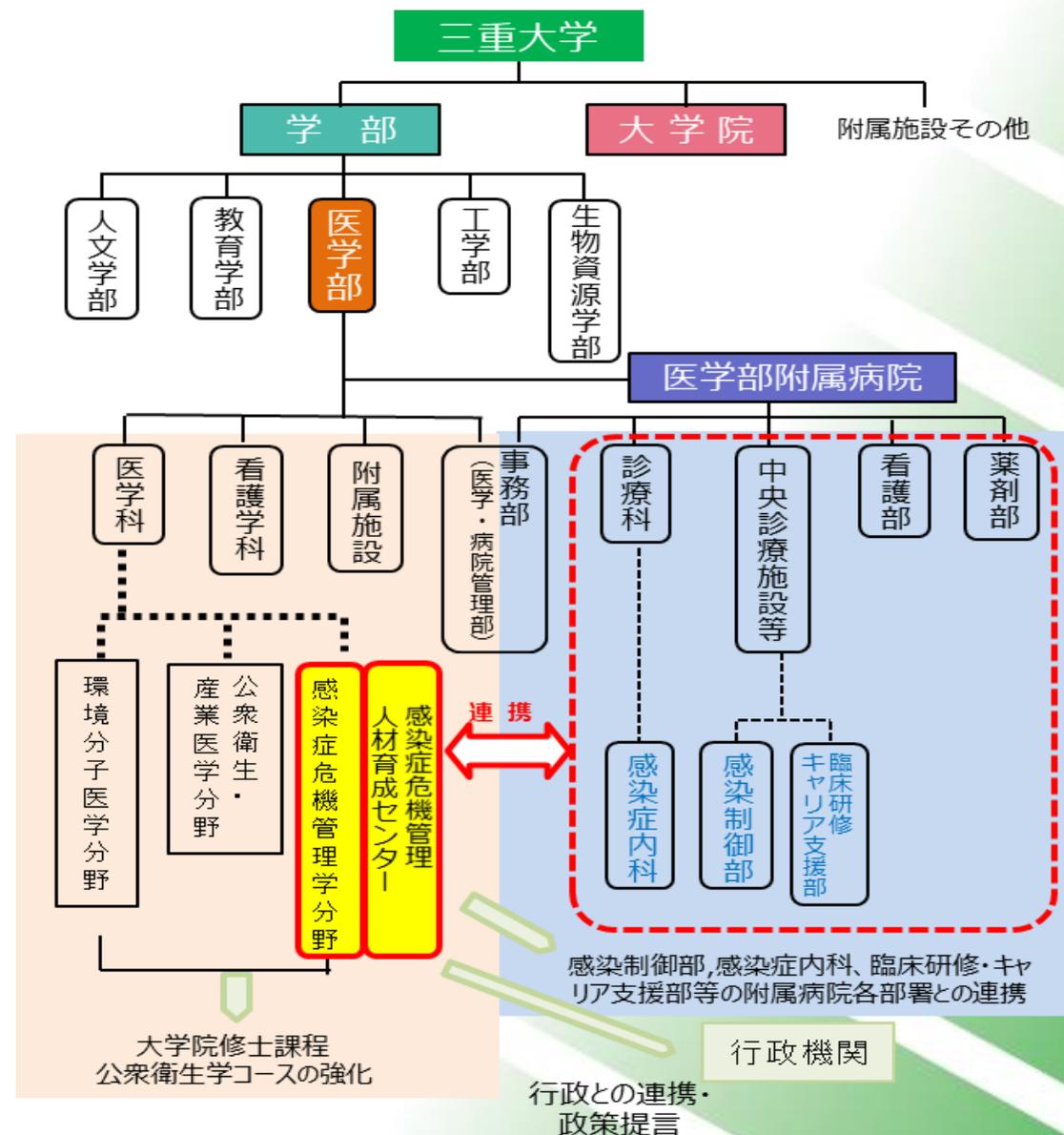
感染症危機管理人材育成センター

目的

地域における中核的な医療系高等教育機関として、新興・再興感染症に対応できる感染症危機管理人材および地域社会の公衆衛生に貢献する人材の育成を目指す

役割

人材の育成だけでなく行政に感染症対策を提言する地域のシンクタンクとしての役割も担う



MIE UNIVERSITY



ご清聴ありがとうございました